

令和4年度 国立夜須高原青少年自然の家 教育事業報告
夜須高原・県内青少年教育施設合同ボランティア支援事業
『ボランティア応援講座』
～ボランティア・基礎編～

- 1 趣 旨 青少年教育施設における今日的な役割を理解し、子どもたちの体験活動を支援するボランティア活動について、基本的な知識や技能を習得するとともに、施設ボランティアとして必要な資質・能力の向上を支援する。また、研修を通して参加者同士の交流を図る。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 3 共 催 福岡県立社会教育総合センター・福岡県立英彦山青年の家・福岡県立少年自然の家「玄海の家」
- 4 後 援 福岡県教育委員会
- 5 期 間 令和4年6月18日(土)～6月19日(日) 1泊2日
- 6 会 場 国立夜須高原青少年自然の家
〒838-0202 福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103
- 7 対 象 主に大学生等(社会人も可)
- 8 参加者 参加人数：14名
- 9 日 程 6月18日(土)
(午前)研修①「仲間づくり」
国立夜須高原青少年自然の家 主任企画指導専門職 篠原 和広
(午後)研修②「青少年教育の理解」～青少年と体験活動の教育的意義～
国立夜須高原青少年自然の家 所長 松井 和彦
研修③「ボランティア活動の意義」
福岡県立英彦山青年の家 主任指導主事 沼田 英剛
研修④「KYT(危険予知トレーニング)」
福岡県立社会教育総合センター 主任社会教育主事 高瀬 博
研修⑤「野外炊飯(カレーづくり)」
国立夜須高原青少年自然の家 主任企画指導専門職 篠原 和広
国立夜須高原青少年自然の家 事業補佐員 嶋村 董
研修⑥「法人ボランティア制度とは」
国立夜須高原青少年自然の家 法人ボランティア 近藤 祐加
国立夜須高原青少年自然の家 法人ボランティア 田中 結菜
国立夜須高原青少年自然の家 事業推進係員 原田 大志
- 6月19日(日)
(午前)研修⑦「安全管理(普通救命講習)」
甘木・朝倉消防本部隊員
(午後)研修⑧「青少年教育施設の現状と運営」
福岡県立少年自然の家「玄海の家」 主任社会教育主事 川野 顕太郎
研修⑨「青少年教育施設におけるボランティア活動」
国立夜須高原青少年自然の家 主任企画指導専門職 篠原 和広

10 活動の実際



【研修①「仲間づくり」】



【研修②「青少年教育の理解」】



【研修③ボランティア活動の意義】



【研修④KYT（危険予知トレーニング）】



【研修⑤野外炊飯（カレーづくり）】



【研修⑥「法人ボランティア登録制度とは」】



【研修⑦「安全管理（普通救命講習）」】



【研修⑧「青少年教育施設の現状と運営」】



【研修⑨「青少年教育施設におけるボランティア活動」】



【全体集合写真】

11 感想

- 仲間づくりでは、個人間からペアワークに広がって行ったものを、理論で教わったので理解しやすかったです。
- 今回、知り得たことを、これからのボランティアで考えながら活動したいです。
- 分からないことや、自分たちが気付かなかったことを御教授くださり助かりました。
- 横のつながりや、普段とは異なる環境で過ごせて、とても有意義でした。
- この2日間でボランティアとして活動するにあたり、本当に大切なことを学べて、参加してよかったと心から思います。

12 成果

- コロナ禍で開催が危惧されたが、早い段階から多くの大学に挨拶や広報を行っていたことで、様々な大学生が集い、感染対策を講じながら充実した研修を実施することができた。
- 企画・立案時に、本事業の目的をしっかりと明確化したことで、主催者側が意図したことが参加者側に伝わり、アンケート結果から見ても分かるように、有意義な研修になった。
- 安全管理（普通救命講習）は、甘木・朝倉消防本部隊員に御指導いただいたことにより、臨場感のある講義及び実習を体験することができた。
- 本事業後、法人ボランティアの登録希望者が10名あった。うち5名は、後日実施された教育事業でのボランティア参加につながった。

13 課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響は、今後も続くと思われる。参加者の不安が取り除かれるように万全な感染対策を講じるとともに、あらゆる方法で実施できるように、事前に検討を重ね準備しておく必要がある。
- 今後も、早い段階から各大学への挨拶や広報を行うことで、更に多くの新規ボランティア育成に向けて努めていきたい。
- 今後は、法人ボランティア同士が積極的につながり、自主的に研修を重ね、法人ボランティアが自ら子どもたちのキャンプ等を自主企画していけるような体制づくりを目指したい。